ケア・カフェ奥州
会報
ムーン・ライト

ケア・カフェ奥州委員会

岩渕 睦子、小野寺 美緒
吉田 由美、渡邉 久子
福地 善教
文責 中目 祐幸

在宅医療を考える 映画「いのちの停車場」から・・・

今月号から在宅医療を様々な観点から考えたいと思います。
今回は医師であり作家である南京子さん原作の「いのちの停車場」を取り上げます。

この作品主演吉永小百合で5月21日から上映されています。作品のテーマと作者の意図を想像して、在宅医療を考えてみます。

いのちの停車場オフィシャルホームページより

ストーリー

物語はトンネル内での交通事故の場面から始まる。大学病院で救急救命医の白石咲和子は瀕死の搭乗者を懸命に手当てする。しかし、咲和子は事故当日に同僚事務員野呂（医大卒、国試不合格）が行った医療行為の責任を取って退職し、故郷金沢で、まほろば診療所に就職する。診療所では交通事故から回復していない院長仙川徹が車イスで出迎える。　看護師の星野麻世は、まほろば診療所の看護師だった姉の運転する車の事故で一緒に同乗していた甥っ子と生き残った経験がある。後日、咲和子を慕って野呂が訪れ、まほろばの一員となる。診療所の患者は全てが訪問診療を受けている。在宅診療の経験のない咲和子は戸惑いながら少しずつ生きがいを見出す。
患者にはそれぞれ事情がある。
末期の肺がんで芸者智恵子は「芸が出来なくなったら芸者は終わり。私の人生もおしまい」とタバコを口にする。凛とした佇まいを崩さない。

脳出血の後遺症で夫の介護を受けるシズはゴミが散乱する部屋で寝たきりの生活を送る。「早く死ね」と暴言を吐く夫は、臨終に泣き崩れる。

IT企業の江ノ原は不遜な態度で「私は在宅医を信用できない」と言い放しつつ、最先端医療のコディネートを依頼する。佐和子の再生医療の提案に喜々とする。

再発した乳がん患者、朋子は、幼馴染の佐和子に生きる希望を求めて診療所を訪れ、3日間滞在する。スタッフのたまり場BAR　STATIONにも足を運んで会食をし、人のやさしさに触れる。

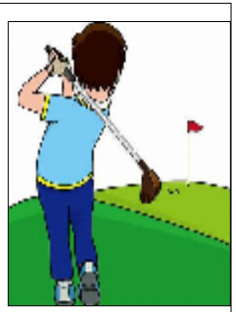
すい臓がん末期の元高級官僚の宮嶋は息子との不仲を引きずりながら、死の床に着く。子供に与えたプラレールが走るのを目で追う姿が切ない。

小児がん患者の萌は、死期が迫るのを感じ、「今度生まれるときは人魚になりたい。死ぬまでの海の神様にお願いしたい」と海に行く望みを野呂に託す。萌を背に泳ぐ野呂に、いのちは時間の長さよりも大切なことに気づかされる。

そして、咲和子は父の壮絶な痛みになす術もなく、「自分の命はせめて自分で決めたい」という父の願いを受け入れる覚悟をし、まほろばに別れを告げる。　翌朝、朝日に光り輝く犀川を父と二人で眺める・・・ここがラストシーンです。果たして、佐和子は父の願いを叶えてしまうのでしょうか？

連載エッセイ

Kさんとの対話　第２回　　Kさんは前かがみの姿勢から背筋を伸ばした。それは、まるでドライバーと手にティーグランドに立つような雰囲気だった。そして静かに語り始めた。「それは、ありました。でも今は、全てを失った。　ゴルフもできないので道具は人に譲った。」　その表情には喪失感はなかった。それからは堰を切ったように、そして、一言一言が私の胸に降り注いだ。「ゴルフにはその人の性格がプレーに現れるのです。」「スコアを気にするスポーツではない。」「技術や勝負にこだわるとゴルフの素晴らしさに気が付かない。」「ゴルフは素晴らしいものなのです。人生を懸けるぐらいに・・・。」実は、かつてゴルフに興じたものの、一向に楽しめずに10年以上遠ざかっている私にはその言葉が新鮮に胸に響いた。　ゴルフは人をそんなにも魅了するものなのか・・・。　真剣に取り組めばその魅力に触れることができるかもしれない。そう思い立つとゴルフにもう一度触れてみたくなった。



映画を通して在宅医療を考える

在宅医療では、看取りが問題になる。　この映画でも脳梗塞で介護を受けるシズ、すい臓がん末期の宮嶋、小児がんの萌をまほろばの面々が看取る。
看取りと言えば医師が臨終の場面に立ち会うことが強調される。では、看取りとは死の宣告のことを指すのであろうか？

人の死は呼吸停止、心停止、脳機能停止（瞳孔散大と対光反射の消失）した時点と定義され、医師の判断が不可欠である。しかし、死に至るとの言葉のとおり、死後も含めて、ある程度の時間の幅で捉えることが必要ではないだろうか。死に行く人や家族との対話に看取りの本質があると思う。そうでないと、看取りは医師行為になってしまう。　萌を背に泳ぐ野呂は医師ではないが、死への時間を患者と共有している。さらに、看取りには家族へのメッセージも含まれる。　宮嶋の臨終に絶縁している息子の姿はない。佐和子は野呂に息子役を　命じる。野呂は咄嗟に感謝の言葉を演技ではあるが伝える・・・そして、宮嶋に平穏な死が訪れ、傍らの妻が見送る。
野呂の代役は残された妻にも必要なことだったと思う。
また、再発した乳がんの治療に一縷の望みを抱いて治験に参加した朋子は、様態が急変し結果的には死期を早めてしまう。　死の連絡を受けて、病院に駆け付けた佐和子は抗がん剤の後遺症で変色した指に化粧を施す。　死者への配慮に人としての優しさを感じる。その姿は朋子の娘にも母の死を受け止める勇気を与えたと思う。

死について考えることは生きるためにも必要な事です。死から学ぶことは多くあると思います。

皆様はどう思いますか？　（次号へ）
ご意見、ご感想を
cafe@nakanome.biz　まで

コーヒタイムNo２

夏でもコーヒーはホットでという方もいらっしゃると思いますが、今回はアイスコーヒーのお話しです。アイスコーヒー用としてはしっかりしたキレのある苦みがでるイタリアンローストのコーヒーがおすすめです。焙煎度合が1歩手前のフレンチローストを用いると苦みがマイルドになります。冷やすのにひと手間かかるイメージがありますが上記のコーヒーをドリップして氷の入ったグラスに注ぐ方法ならホットコーヒー淹れるのと同じ時間で淹れることができます。
多めに作って冷蔵庫に保存するのもいいですね。　（坂本匠吾）

日本珈琲社のご紹介
9～18時30分営業
（毎週木曜日定休）
〒岩手県奥州市水沢区宮下町25
ＴＥＬ0197-25-2151

会員紹介のコーナー

今回はケアカフェ発足時より運営に参画している福地善教さんです。

『奇跡のリンゴ』との出会い

かれこれ、畑仕事？農作業？家庭菜園？との出会いは、２０年ほど昔の得意先行事でした。　半強制的に土を耕し、１日中草むしり。全く興味もなくやらされ仕事で始めたのを覚えています。たまたま余ったトマトの苗を家の草っぱらにポチっと植え、そのまま放置していたら、なんと勝手にトマトが・・・・・。それを当時可愛かった娘がパクッと。「美味しい～！！！」の一言に感化され、年々畑の規模が大きくなり、今や　兼業？専業？農家？となっております。今では、その先生と土を耕し、草取りをし、秋には大収穫祭。

我が家で食す野菜は、ほぼ自給自足です。
昨年の暮れに、時間を持て余し図書館へ。そこで映画にもなって、皆様御承知の方も多いかと思いますが、書籍の『奇跡のリンゴ』との運命的な出会いが。　私も、もともと無農薬では栽培しておりましたが、無肥料とまではいっておらずこの本との出会いで、今年は土から作り直そうと考えております。
今は、野菜も果物も形、色、糖度全てが綺麗で美味しいものばかり。本来、自然が作り出すものはそうではないと、先生と熱く語り合いました。という事で、今年は土から作り直すことになりました。 環境もそう　体もそう　仕事もそう　人間が都合よく生活するために本来あるべき姿を都合のいいように変えているような気がします。

自然の天然肥料だけで作りだす　自然の味・形の野菜を食すことが出来るよう期待を寄せ、本年も精一杯頑張ります。

追伸　昨年、ピーマンを切ったらニコちゃんマークと遭遇！！！！！

編集後記

やっとコロナワクチンも出回り始めて、皆様で集まれると思った矢先、会社命により、奥州を離れることになってしまいました。いつの日か、集まれることを祈っています。（編集委員　福地）
運営にご尽力いただいた福地さん、編集委員として残留決定になり、今までと今後に感謝。（中）